

## 完成リードを選ぶ

最近リードを選ぶ時に注意する点を表したインターネット上の記事を見て、楽器屋さんを困らしている人がいると聞きました。

それはリードを正面から見た時に、上下が同じカーブを描いている物が良いと言う話です。オーボエのリードならそれが正しいのかもしれませんが、ファゴットではあり得ません。何故なら幅が違うからです。先端の幅が15mm前後あるファゴットのリードでは、歯や筋肉、唇の形の影響が大きくなります。

人間の顎は上下で構造が違います。上顎は頭蓋骨と一体になっていますが、下顎は関節で繋がっているのが当然前者の方が丈夫で力も強い訳です。

そこにくっついている唇もまた同様で、上唇は固定され、下唇は固定されていないので上下左右に動くのと引き換えに力が弱い訳です。

つまりファゴットを吹く時は下顎と口輪筋を鍛えないといけません。特に我々は西洋人より唇が厚い事が多く、少々不利だと考えていますが、そこを上手く処理出来れば独自の音にも出来るでしょう。

それは兎も角、先に記した様な上下が同じカーブを描くリードは、唇に掛かる力を均等に掛かる事が前提でしょう。

しかし、人体の構造上均等に力が掛けられる事はあるのでしょうか？私は無理だと考えています。

私がリードを作る時はアンブチャーを作ってリードを啜えた時、力の強い上唇側を強く、下唇側を弱く作ります。上顎は動か(せ)ないので、最終的にアンブチャーを形成するのは下顎と下唇の調整力だからです。したがって、弱い下顎を鍛えないといけないのです。

そして演奏すれば鍛えても下顎は疲れます。結果として力の入り方が崩れ、下側から歯も動員して持ち上げる様になります。そんな時でも何とかなるのが頼りになるリードでしょう。こんな時、最初から均等に作ったリードは両側が持ち上がり、ニコニコマークの様になります。これは良い事とは言えません。つまり吹き始めてリードの両端に力が掛かった時にこそ、上下の形をキープ出来るものが良いと考えています。つまり、吹き始めて安定した時の形では、上下均等が良いという事です。

下側を弱く(薄く)するには、もう一つの理由があり、低音域を奏する時に緩めるのは下唇だからです。上唇は頭蓋骨に繋がっているから当然ですね。

これらの事を考えれば、吹き始める前にリードを選ぶなら、唇の形に近い形状が良いでしょう。

とは言え、最終的には楽器に付けて吹いてみないと分かりません。当たり前ですが(笑)

そうやって経験を積んで初めて、リードの良し悪しを形状から予測出来る様になります。それでも100%はあり得ませんが。

皆さんもSNSやネット上の記事を金科玉条とせず、焦らず少しずつ身に付けて下さい。